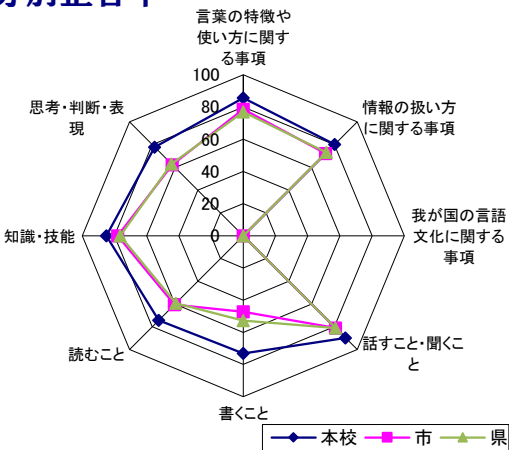


宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	85.6	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	80.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	89.8	81.0	81.1
	書くこと	73.2	47.2	52.8
	読むこと	74.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	85.1	78.0	76.5
	思考・判断・表現	77.9	62.3	63.1



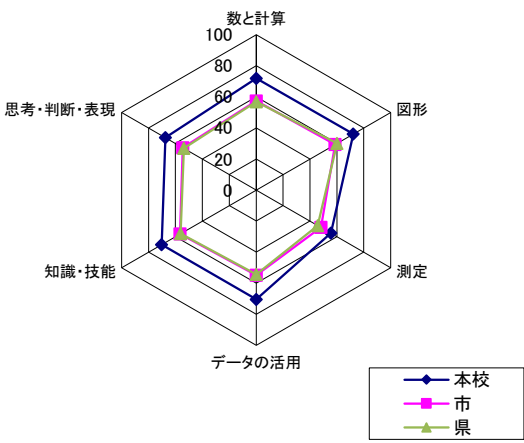
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は県の平均よりも8.7ポイント、市の平均よりも7ポイント高い。 ○第3学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることがよくできている。 ●ローマ字とその読み方の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では、正答率が71.6%と、県や市の平均を下回っており、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き、漢字練習や漢字スキル、AIDリルを活用して反復学習を行い、定着を図る。 ・外国語活動と関連付けながら、ローマ字を読んだり書いたりする活動を取り入れていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用し習熟を深める。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は県の平均よりも7.2ポイント、市の平均よりも8.1ポイント高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、正しく活用することができている。授業の際に、意味調べを行ったり、司書が行っている「辞書引きクイズ」に積極的に参加したりして、国語辞典に慣れ親しんできた成果といえる。	・今後も、国語辞典を活用する場面を設けていく。 ・司書と連携し、辞書で調べたり、辞書を引いたりする場面を設定していく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用し習熟を深める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均よりも8.7ポイント、市の平均よりも8.8ポイント高い。 ○参加者の発言の内容をもとに、司会者の発言として適するものを選ぶ問題の正答率が85.2%と県や市の平均をそれぞれ16ポイント、14.3ポイント上回っている。日頃からグループ学習を各教科で取り入れ、話したり聞いたりする活動を繰り返し行ってきた成果といえる。	・今後も、グループ学習を様々な場面で取り入れ、テーマに沿って話したり、役割分担をしたりしながら活動できるよう指導していく。 ・話し合い活動における話し方や聞き方の指導を継続して行う。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用し習熟を深める。
書くこと	平均正答率は県の平均よりも20.4ポイント、市の平均よりも26ポイント高い。 ○自分の考えとその理由を明確にしながらかきいたり、指定された長さで文章を書くことができている。 ●2段落構成で文章を書くことについては、県や市の平均を上回っているものの正答率が55.6%と低く、段落の役割についての理解が不足している。	・今後も「書く」ことに力を入れ、授業や宿題などで自分の考えとその理由を明確にしながらかき文章を書く機会を設けていく。 ・文章構成の仕方について指導し、条件にあった文章を書く機会を設けていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用し習熟を深める。
読むこと	平均正答率は県の平均よりも14.9ポイント、市の平均を13.7ポイント高い。 ○登場人物の気持ちや場面の様子を叙述から読み取る問題の正答率は90.1%、叙述を基に指示語の内容を捉える問題の正答率は75.3%で、それぞれ県の平均よりも10.3ポイント、26.4ポイント上回っている。 ●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く問題は県や市の平均を上回っているものの正答率が40.7%と低く、課題が見られる。	・図書室を活用したり朝の学習の時間での読書の時間を確保したりすることで、優れた文章や豊かな表現に触れる機会を増やしていく。 ・文章を要約したり、筆者が伝えたいことをまとめたりする機会を設け、中心となる語や文を自分で捉えられるようにしていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用し習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.9	57.4	56.9
	図形	72.2	58.7	60.1
	測定	55.6	48.1	45.7
	データの活用	70.4	54.9	54.3
観点	知識・技能	70.2	56.6	56.2
	思考・判断・表現	67.5	54.5	53.8



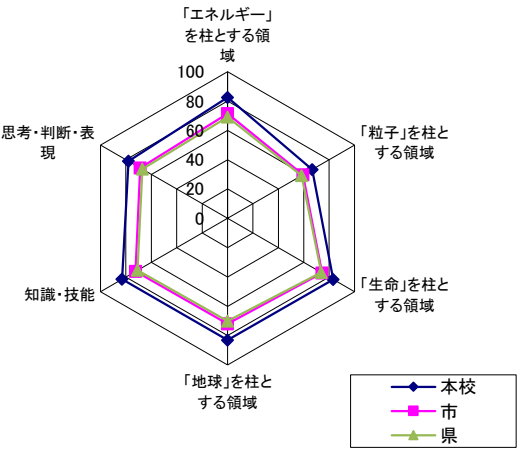
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均より15.1ポイント、市の平均より14.5ポイント高い。 ○分数の表す正しい大きさを答える問題の正答率は92.6%で、県の平均を22.8ポイント、市の平均を23.6ポイント上回った。 ●余りをもとに計算の間違いを説明する問題については、県や市の正答率を上回っているものの正答率が44.4%と、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も分数の意味と表し方について理解を深めていく。 ・余りの数が変わる数より小さくなることを理解し、正しく計算できるように指導していく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して、習熟を深める。
図形	平均正答率は、県の平均より12.1ポイント、市の平均より13.5ポイント高い。 ○球を平面で切ったときの正しい切り口を選ぶ問題の正答率は86.4%で、県の平均を12.4ポイント、市の平均を16.7ポイント上回った。 ●二等辺三角形の性質から、3つ目の頂点を選ぶ問題については、県や市の正答率を上回っているものの正答率が44.4%と、課題が見られる。	・今後も作図などを通して、図形の定義を正しく理解できるように指導する。 ・コンパス、三角定規などの使い方を丁寧に確認する。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して、習熟を深める。
測定	平均正答率は、県の平均より9.8ポイント、市の平均より7.5ポイント高い。 ○単位をそろえて、2つの道のりの和を比べ、どちらのほうが短いかを説明する問題の正答率は64.2%で、県の平均を12.5ポイント、市の平均を10.9ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は34.6%で、県の平均を5.1ポイント上回っているものの市の平均は0.6ポイント下回り、課題が見られる。	・実際にはかりを使って、一目盛りを表す大きさを確認し、重さを正しく読み取れるように指導していく。 ・今後も長さの単位を理解し、図を用いて問題の意図を確認できるように指導していく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して、習熟を深める。
データの活用	平均正答率は、県の平均より16.1ポイント、市の平均より15.5ポイント高い。 ○二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える問題の正答率は79.0%で、県の平均を19.3ポイント、市の平均を18.0ポイント上回った。	・他教科でグラフを扱う場面においても、複数のグラフを見比べて特徴を確認するなど、グラフを読み取り活用する力を育てる。 ・グラフや表の特徴や利点に関する理解を深める。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	82.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	66.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	83.3	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	83.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	83.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	78.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より13.4ポイント、市の平均より11.1ポイント高い。 ○風やゴムのはたらきがものを動かすことや磁石のはたらきについて、実験結果を正しく読み取り、考察したり推測したりすることがよくできている。 ●県や市の平均は上回ったものの、3人以上で糸電話を使用し、1か所をつまんだ結果から、音が伝わった人を指摘できるかという問題の正答率が低い。	○今後も実験を重視し、1人1人が五感で学ぶ実験活動をさせるようにしていく。 ●実験の結果を表などに分かりやすく表す活動を行い、変化を見取ったり比較したりすることがさらに効率的にできるようにする。 ●フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より8.3ポイント、市の平均より7.3ポイント高い。 ○体積を同じにした時のものの重さの違いや複数のものの重さを同じにした時の体積の違いについて表と関連付けて考えることができています。 ●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題について、県と市の平均とともに1.1ポイント下回った。	●理科の用語を意識させ、正しく使えるように指導していく。 ●国語科の学習を中心として読む力の向上を図っていく。 ●フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より9.4ポイント、市の平均より8.8ポイント高い。 ○クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモが昆虫であるか判断する問題の平均正答率は79%で県の平均を17.4ポイント、市の平均を15ポイント上回っている。 ●モンシロチョウととんぼの育ち方を比較して差異を記述で答える問題については、県や市の平均は上回ったものの正答率が低い。	●今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けられるように指導していく。 ●実験の結果から考えられることを話し合う活動に十分時間をとり、自分たちの言葉でまとめられるようにする。 ●フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より12.9ポイント、市の平均より11.1ポイント高い。 ○全体的によく定着が図られている。特に方位磁針の使い方に関する問題では県の平均を20.3ポイント、市の平均を18.3ポイント上回っている。	●今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けられるように指導していく。 ●知識・技能の取得が図られており、思考問題も正答率が高いが、やや個人差が見られる。一人一人に対応した確かな支援や指導をしていく。 ●フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。

宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の設問の肯定割合は84.7%、83.5%で、いずれも県の割合を7.6ポイント、8.1ポイント上回っている。グループでの学習活動を通して、友達の意見を聞き新しい考えに気付いたり、自分の考えを伝える中で新しいアイデアを生み出したりすることができていると言える。今後も自分の意見を伝えるだけでなく、友達の考えにも耳を傾けながら、考えを深めたり広げたりすることによって、主体的に学ぶ力やコミュニケーション力を高められるように、話し合いの時間を確保できるよう努めていく。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めている。」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の設問の肯定的割合は89.4%、98.8%で、それぞれ県の割合を3.8ポイント、5.8ポイント上回っている。児童は、学級でのきまりを守り、係等の仕事にも責任をもって取り組んでいる。一人一人が自分の役割を理解し、進んで行動し、学級の一員として自覚ある行動が取れている児童が多数いるため、学級全体の雰囲気さをさらによりよくできるよう取り組んでいく。

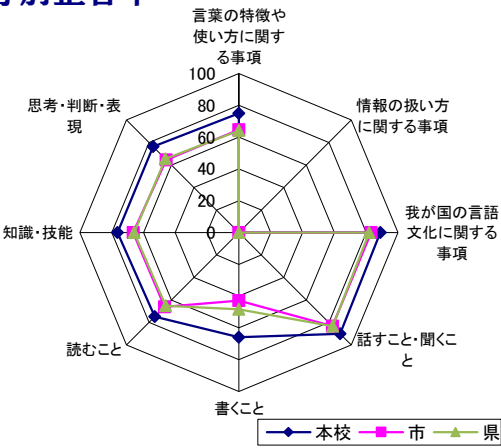
○「ふだん(月～金曜日)テレビ、DVD、動画視聴が2時間未満」の児童の割合が57.7%、「ふだん(月～金曜日)ゲームをする時間が1時間未満またはしない」児童の割合が47.1%、「ふだん(月～金曜日)携帯電話やスマートフォンで通話やインターネットをする時間が1時間未満または持っていない」児童の割合が92.9%で、それぞれ県の平均を10.7ポイント、15.1ポイント、20.4ポイント上回っている。各家庭でメディア視聴や使用上の約束を決めて守ったり、睡眠時間をきちんととったりなど規則正しい生活を送る意識を高くもっていることが伺える。引き続き各便り等を通して、規則的な生活習慣の重要性を発信し続けるなどして家庭と連携を図っていく。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の設問の肯定割合は54.1%、60%で、いずれも県の割合を2.4ポイント、6.3ポイント下回っている。学習時に次時の内容を伝えたり、具体的な予習方法を示したりするなどして家庭学習の習慣化を図っていく。テストの直し直しの際には、問題の傾向などを全体で確かめる等、習熟が図れるようにしていく。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	90.1	83.3	83.4
	書くこと	65.9	42.8	48.2
観点	読むこと	74.8	66.1	65.1
	知識・技能	76.4	66.5	65.9
	思考・判断・表現	76.4	64.6	65.5



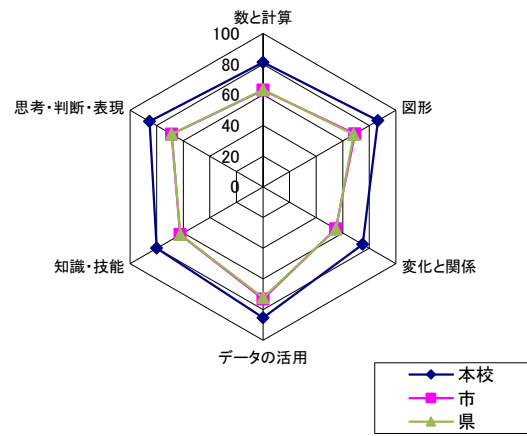
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県の平均より10.9ポイント、市の平均より10.3ポイント高い。 ○漢字の読み書きについてはほとんど県や市の平均を上回っており、書きについては、3問とも県や市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●文中の修飾と被修飾の関係を捉える問題の正答率が17.5%、熟語についての問題の正答率は50.8%と、どちらも市の平均正答率は上回っているものの、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も継続して漢字ドリルや小テストを活用し、定着を図っていく。また、他教科の学習の中でも、習った漢字は積極的に使うように指導していく。 ・文の構造や単語同士の関係性、熟語について、漢字辞典なども活用しながら、授業の中でしっかりと指導していく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県の平均より7ポイント、市の平均より5.8ポイント高い。 ○平均正答率は88.9%であり、多くの児童がことわざの意味を理解し、文中で正しく用いることができています。	・今後も継続して、国語辞典なども活用しながら、ことわざや慣用語について意味を調べてまとめたり、互いに問題を出し合ったりしながら、理解を深めていく。 ・折に触れて話題にすることで、ことわざや慣用語についての興味関心を高める。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均より6.6ポイント、市の平均より6.8ポイント高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の平均正答率は96.8%、参加者の発言を基に考えをまとめる問題の平均正答率は90.5%でそれぞれ県の平均を9.2ポイント、13.2ポイント上回っている。 ●話し手の工夫を捉える問題の平均正答率は79.4%で、県や市の平均をそれぞれ4.6ポイント、3.0ポイント下回っており、課題が見られる。	・話す聞くの学習の際に、話し手の工夫についても取り上げ、より分かりやすい伝え方について指導する。 ・国語の授業だけでなく、他教科においても、自分の考えをまとめて伝える活動の際によりよい話し方について指導していく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
書くこと	平均正答率は県の平均より17.7ポイント、市の平均より23.1ポイント高い。 ○指定された長さで文章を書いたり、段落を分けて文章を書いたりすることについては、県や市の平均を16.4ポイント、22.7ポイント上回っている。 ●アンケート調査の結果を読みとり、事実を伝える文章を書くことについては、県や市の平均を上回っているものの平均正答率が55.6%と、課題が見られる。	・資料から読み取った内容を書くことや、事実と意見を区別して書くことについて、指導を継続していく。 ・今後も、国語の書く単元だけでなく、日記や作文課題などを家庭学習として取り組ませることで、書く機会を増やし、文章構成力を向上させる。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。
読むこと	平均正答率は県の平均より9.7ポイント、市の平均より8.7ポイント高い。 ○説明文においては、全体的に内容を正しく捉えることができています。 ●登場人物の気持ちを具体的に説明する問題については、県や市の平均を上回っているものの、平均正答率は49.2%で、無回答率も11.1%となっており、課題が見られる。	・物語文では、登場人物の気持ちを、場面の様子や叙述から正確に読み取れるよう丁寧に指導する。さらに、様々な事象についてより具体的に説明できるよう、読書活動を推進し、表現力豊かな文章に触れる機会を増やしたり語彙力を高めたりして個人差に応じた指導を的確に取り入れていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深めていく。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.2	63.0	63.3
	図形	86.5	69.2	68.3
	変化と関係	75.1	54.8	55.0
	データの活用	85.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	80.0	62.3	62.1
	思考・判断・表現	85.4	68.7	68.7



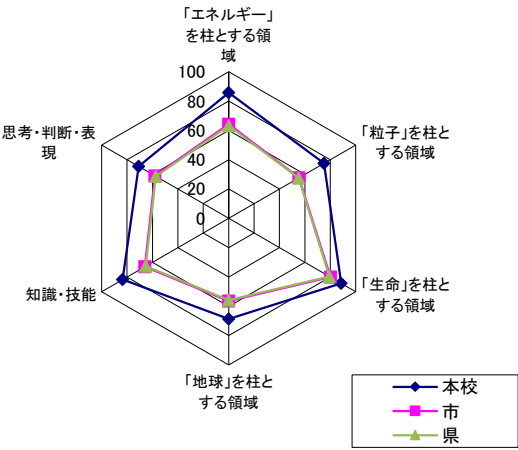
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均より17.9ポイント、市の平均より18.2ポイント高い。 ○数と計算の領域では、13問中すべての問題で平均正答率が県や市の平均を上回っている。 ●帯分数をもとにする分数のいくつかで考えたり、小数第一位÷整数の計算をしたりする問題では、無回答率が7.9%となっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の仕組みの理解を深めるために、デジタル教科書を用いて位ごとの意味や関係を理解させる。また、計算方法を習熟させるためにAIDリルなどを活用する。 ・新しい単元に入る前に、前学年での内容確認をして、既習事項の復習をする。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
図形	平均正答率は、県の平均より18.2ポイント、市の平均より17.3ポイント高い。 ○図形の領域では、4問中すべての問題で平均正答率が県や市の平均を上回っている。 ○図形見分ける問題では、正答率が100%である。	・三角定規の仕組みや角の大きさの理解を深めるために、三角定規を用いた類似問題を多く解いたり、実物を使って問題を解いたりして習熟を図る。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
変化と関係	平均正答率は、県の平均より20.1ポイント、市の平均より20.3ポイント高い。 ○変化と関係の領域では、3問中すべての問題で、平均正答率が県や市の平均を上回っている。 ○割合が基準量の何倍かを求める問題を理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県や市の平均よりそれぞれ26.8ポイント、24.9ポイント高い。	・割合や何倍かを求める問題では、何が基準量になるのかを捉えて考えたり、図に表したりして理解を促していく。また、類似する問題に継続的に取り組ませる。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
データの活用	平均正答率は、県の平均より13.0ポイント、市の平均より12.2ポイント高い。 ○データの活用の領域では、4問中すべての問題で、平均正答率が県や市の平均を上回っている。 ●二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、無回答率が3.2%となっている。	・二次元の表から読み取れたことを書き表したり、児童同士で説明し合ったりする機会を多く設けて、表の中にある数字が何を表すのか理解を促す。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	85.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	75.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	88.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	68.7	56.4	55.8
観点	知識・技能	83.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	70.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より22.5ポイント、市の平均より21.4ポイント高い。 ○電流の働きについて、全体的によく定着が図られている。直列回路と並列回路に流れる電流の向きや大きさについてや、電流が流れない回路の改善など、理解がよく図られている。	○今後も実験を重視し、1人1人が五感で学ぶ実験活動をさせるようにしていく。 ・実験の結果を表などに分かりやすく表す活動を行い、変化を見取ったり比較したりすることがさらに効率的にできるようにする。 ・実験の結果から考えられることを話し合う活動に十分時間をとり、自分たちの言葉でまとめられるようにする。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より20ポイント、市の平均より19.7ポイント高い。 ○全体的によく定着が図られている。特に、温められた空気の動き方を考える問題で34.4ポイント、湯気について正しく理解しているかを問う問題で41.7ポイント県の平均を上回った。 ●圧縮や温度による空気の体積の変化についての問題で、県や市の正答率を15ポイント程度上回っているものの、正答率が46%と課題が見られる。	・温められた空気の動きや閉じ込めた空気の働きについて学習したことを、身近な生活の場面で起こることに当てはめて考え、話し合う活動を行った成果が出たと思われる。今後もこのような取組を継続していく。 ・現象を理解するためにモデル化する力を身に付ける指導をする。 ・問題の意図に従って記述する力が付くよう、書く力の指導をしていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より9.3ポイント、市の平均より8.5ポイント高い。 ○人の体のつくりと運動について、関節や骨のはたらきを理解しているかどうかについての平均正答率は73%で県や市の平均をそれぞれ31.1ポイント、28.5ポイント上回っていて、鳥の体のつくりとの差異点を記述することもできている。 ●ヘチマの季節ごとの成長の様子については県や市の平均を下回っている。	・今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けるようにさせていく。 ・実験や観察のポイントをはっきりさせた支援指導をしていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より12.9ポイント、市の平均より12.3ポイント高い。 ○全体的によく定着が図られている。特に、天気と気温を示したグラフから変化の理由を考える問題の平均正答率は82.5%で県や市の平均をそれぞれ18.7ポイント、16.9ポイント上回っている。 ●水たまりのできにくさを水のしみ込みやすさと関連付けて説明する問題の平均正答率は41.3%で県や市の平均をそれぞれ0.2ポイント、0.7ポイント下回った。 ●結露のでき方についての問題の平均正答率は31.8%で、県や市の上回っているものの課題が見られる。	・問題の意図に従って記述する力がよく付くよう、書く力の指導をしていく。 ・今後も、授業時間だけでなく、身近な自然や現象に、関心や疑問をもって目を向けることができるよう指導していく。 ・知識・技能の取得が図られており、思考問題も正答率が高いが、やや個人差が見られる。一人一人に対応した確かな支援や指導をしていく。 ・フォローアップシートやパワーアップシートを活用して習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「学校の宿題はやりたくなる内容だ」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問の肯定割合は85.3%、73.8%、70.5%、72.1%でそれぞれ、県の割合を11.4ポイント、13.9ポイント、15.3ポイント、12.3ポイント上回っている。また、「学校の授業以外にふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。」の設問に、本校で5年生の目安とする1時間以上と回答した割合は63.9%で、県の割合を14ポイント上回っている。児童が興味をもてるような学習課題の設定や、授業展開をするとともに、家庭学習に向けた適切な指導をすることによって児童が意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。今後も引き続き、分かる授業の展開と、適切な支援を行っていく。

○「不思議だな。なぜだろう」とおもうことがある。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「本やインターネットなどを利用して、学習に関する情報を得ている」の設問の肯定割合は93.4%、78.7%、82%でそれぞれ県の割合を9.7ポイント、10.6ポイント、12.8ポイント上回っている。学習指導において疑問に思ったことを追究したくなるような授業展開を心がけ、調べる学習環境を整えている結果と言える。引き続き様々な視点から考え、表現できるような学習指導を心がけていく。

○「睡眠時間が8時間以上」の児童の割合は95%、「ふだん(月～金曜日)テレビ、DVD、動画視聴が2時間未満」の児童の割合が70.5%、「ふだん(月～金曜日)ゲームをする時間が1時間未満またはしない」児童の割合が57.4%、「ふだん(月～金曜日)携帯電話やスマートフォンで通話やインターネットをする時間が1時間未満または持っていない」児童の割合が98.4%で、それぞれ県の平均を4.1ポイント、26ポイント、29.6ポイント、26.7ポイント上回っている。各家庭でメディア視聴や使用上の約束を決めて守ったり、睡眠時間をきちんととったりなど、規則正しい生活を送る意識を高くもっていることが伺える。引き続き各便り等を通して、規則的な生活習慣の重要性を発信し続けるなどして家庭と連携を図っていく。

●「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている。」の設問の肯定割合は72.1%、90.2%でそれぞれ、県の割合を9.6ポイント、3.3ポイント下回っている。今後は授業における学習課題をはっきりと明示し、課題解決の意識をもって学習に取り組ませ、課題に対する結論を分かりやすくまとめ、学習を振り返るといった授業展開を今まで以上に意識して取り組んでいく。

宇都宮市立峰小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもったうえで友達と積極的に意見を交流し、様々な視点から自らの考えを修正したり深めたりできるような支援していく。	教材やICTを効果的に活用し、自分の考えをペアや小グループで伝え合ったり、ノートやタブレットにまとめ、意見交換をしたりする機会を設けている。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の設問の肯定割合は、4年生、5年生共に県の平均を2.3ポイント、4.8ポイント上回っている。「話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の設問の肯定割合は、4年生、5年生共に県の平均8.1ポイント、3.6ポイント上回っている。
目標やめあてに基づき、学んだことを振り返る活動の充実	学習展開を工夫して、今行っている学習活動を意識させ、授業を振り返るための視点を児童に与えている。	「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている。」の設問の肯定割合は県の割合と同程度であるが、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の設問の肯定割合は、4年生、5年生共に、県の平均を2.8ポイント、9.6ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語の文章の要約を読んで答えたり、登場人物の気持ちを説明したりする問題での正答率が低いものがあつた。質問調査から、学習したことを振り返る活動についての肯定割合が低かつた。	様々な種類の文章を読み、考えを言語化する活動の充実。 学習したことを振り返る活動の徹底。	国語に限らず様々な教科において、文章の要点を見つけ出したり、分かったことを言語化して、自分の考えを説明したりする機会を多く設ける。 各時間のめあてを明確化し、授業の最後にめあてに沿った振り返る活動の徹底に努める。